

野心的な米国の NDC に向けて

Leon Clarke

Research Professor, University of Maryland

■要旨

2021 年は、米国の気候変動への野心と行動にとって重要な年となる。4 年間の連邦政府関与の空白を経て、バイデン-ハリス政権は気候政策をアジェンダの中心に据えている。バイデン大統領は、2050 年までに経済全体の脱炭素化を達成し、2035 年までに 100%クリーンな電力を実現するという公約でキャンペーンを展開していた。最近、パリ協定に公式に再参加したバイデン政権は、4 月 22 日までに国の新たな気候目標を国際社会に提示する意向を表明した。この新たな米国の国別貢献(NDC)は極めて重要である。米国は依然として世界第 2 位の温室効果ガス排出国であり、それゆえ気候変動を抑制するには不可欠の存在である。NDC は、国内の行動の基準を設定し、連邦政府や州レベルの政策決定に影響を与えることになる。また、NDC は、米国が気候変動対策へコミットメントするという明確なシグナルを送ることになり、世界的な追加行動に拍車をかける可能性を秘めている。NDC を成功させるには、政治的現実と進化する市場力学を考慮に入れ、2030 年までの今後 9 年間で可能なことと野心のバランスを取る必要がある。野心的すぎるアジェンダは、米国の失敗と信頼性の喪失を招くリスクがあり、野心が低すぎると、気候政策に熱心でないことを伝えることになり、世界的な取り組みに大きな影響を及ぼすリスクがある。気候変動をめぐる米国は依然として二極化している状況であるが、全米の都市、州、企業による野心的な行動が気候変動をめぐる機運を高めており、10 年前にはほとんど予測できなかったような技術トレンドが米国のエネルギー部門に変化をもたらしている。今回の発表では、米国 NDC を取り巻く問題点や、野心的な NDC に向けた最近の研究について議論する。

(RITE 仮訳)

■略歴／Biography

米国メリーランド大学のグローバル・サステナビリティ研究所(Center for Global Sustainability (CGS))研究ディレクター、公共政策学部の研究教授。気候変動、気候変動緩和戦略、エネルギー技術オプション、統合評価モデリングを専門とするエネルギーと環境問題の専門家。CGS では政策やその他の決定をサポートする定量的手法とモデリングの活用に重点的に取り組む。現在の研究対象は主に中国、インド、ラテンアメリカの低排出開発戦略、ラテンアメリカのエネルギー・水・土地利用計画、米国の都市、州、企業による気候緩和。

経歴:統合人間地球システム科学グループを率い、Pacific Northwest 国立研究所とメリーランド大学の連携によるジョイントグローバルチェンジ研究所(JGCRI)で一連の統合評価モデリング活動を指揮。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)、国家気候評価および米国学術研究会議の著者および統括執筆責任者を務める。現在は IPCC 第 6 次評価報告書の統括執筆責任者。気候緩和に関して数多くの多機関モデリング評価をリードしてきた。「エネルギーと気候変動」誌の共同編集者、チーフ。米国の 2 つの国立研究所、エネルギーコンサルティング、電気・ガス会社に勤務経験がある。スタンフォード大学で経営科学と工学の博士号、カリフォルニア大学バークレー校で機械工学の修士号を取得。

(RITE 仮訳)

Dr. Clarke is the Research Director for the Center for Global Sustainability (CGS) and a Research Professor in the School of Public Policy. Dr. Clarke is an expert in energy and environmental issues, with a focus on climate change, climate change mitigation strategies, energy technology options, and integrated assessment modeling. At CGS, Dr. Clarke focuses on the use of quantitative methods and modeling in support of policy and other decisions. Current activities include low-emissions development strategies in China, India, and Latin America, energy-water-land planning in Latin America, and climate mitigation by U.S. cities, states and businesses.

Dr. Clarke formerly led the Integrated Human Earth System Science Group and directed a range of integrated assessment modeling activities at the Joint Global Change Research Institute, a collaboration between the Pacific Northwest National Laboratory and the University of Maryland. Dr. Clarke has served as an author and coordinating lead author for the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC), the National Climate Assessment, and the National Research Council. He is currently a coordinating lead author in the IPCC's 6th Assessment Report. He has also led a number of multi-institution modeling studies on climate mitigation. He is the Co-Editor and Chief of the Energy and Climate Change. Dr. Clarke's has worked at two U.S. national laboratories, in energy consulting, and at an electric and gas utility. He holds a Ph.D. in Management Science and Engineering from Stanford University and a Masters degree in Mechanical Engineering from the University of California at Berkeley.